

特別展示

日本とスペイン

—外交史料に見る交流史—

展示史料解説



2013
2014

AÑO DUAL ESPAÑA-JAPÓN
日本スペイン交流400周年
400 AÑOS DE RELACIONES

主催：外務省外交史料館・在日スペイン大使館

2013年7月22日（月）～2014年5月8日（木）
於：外務省外交史料館別館展示室

目次

はじめに ー日本・スペイン交流のはじまりー	1
I 外交関係の樹立	3
II スペインへの外交使節派遣	5
III バルセロナ万国博覧会への参加	9
IV 高松宮同妃両殿下のスペインご訪問	11
V スペイン内戦と日本	15
VI 外交関係の再開	17
両国の交流に関する文書を求めて	19
関係年表	23
主な参考文献	25

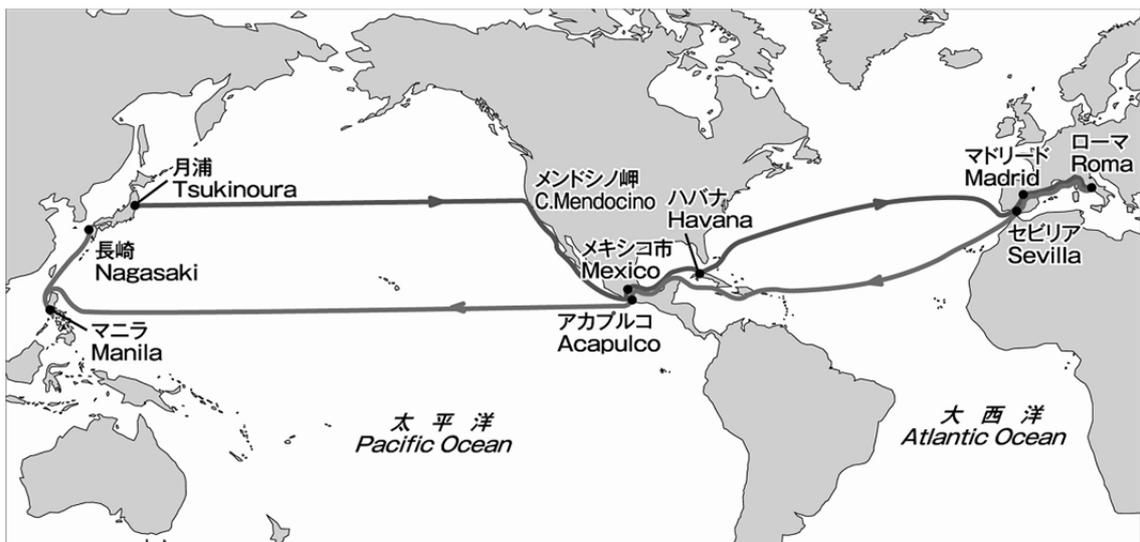
はじめに ー日本スペイン交流のはじまりー

1613年（慶長18年）、仙台藩主伊達政宗は、大御所（前征夷大将軍）徳川家康の許可を得て、スペインに向け支倉常長を大使とする使節を派遣しました（慶長遣欧使節）。支倉一行は、日本人として初めて太平洋と大西洋を横断し、翌1614年にスペインに到着し、国王フェリペ3世（Felipe III）への謁見を果たしています。支倉はスペインにおいて洗礼を受けてキリスト教徒となり、その後、ローマを訪問して教皇パウロ5世（Paulus V）に謁見しました。一行の目的は、通商関係の樹立等にあったとされています。彼らはスペインに対する日本からの最初の公式な使節であり、その派遣は日本・スペイン関係の端緒となる重要な出来事として歴史に刻まれています。

日本・スペイン両国は、慶長遣欧使節の派遣から400周年に当たる2013年から2014年にかけて「日本スペイン交流400周年」として幅広い分野で交流事業を実施します。

外交史料館と在日スペイン大使館が主催する本特別展示では、400年にわたる日本とスペインの交流を外交史料で振り返ります。また、仙台市博物館のご協力を得て、今般、世界記憶遺産に登録された慶長遣欧使節関係資料についてもパネル等にてご紹介します。

本展示が日本とスペインの相互理解促進の一助となれば幸いです。



〈参考〉慶長遣欧使節全行程図

『国宝「慶長遣欧使節関係資料」』（仙台市博物館）より転載



〈特別出展〉伊達政宗よりセベリア市宛書状（レプリカ）

在日スペイン大使館提供（原本はセベリア市文書館所蔵）

大成^(テウス)天有主之御はからいを以、伴天連布羅^(フライ・ソテロ)以そてろ、ハか分国中
 へ御越候て、貴天有主之御法を承、殊勝に真之後生之道与存、御
 宗門可罷成候処に、無扨指合御坐候間、今に無其義候、さて、ハ
 か分国、御宗門可申ために、此たひふらいそてろを頼、支倉六右
 衛門与申侍一人指添、相渡申候、然者其元^(フェリー・三世)大國之帝王さま、同万
 事之きりしたん御親、老間はつはさまへ御れい申上、此ねかひ相
 叶候様、奉頼ために、態兩人進上申候、然者其國御繁昌候様に并
 伴天連ふらいそてろ生國之由承候間、別而たいせつに存、其子細
 者、貴天有主御宗門、此國にひろめ給人、其國より出たるえたに
 て候間、國とも二天有主へ御れい申上候へて、かなはさる義候、
 兩人吾等代に、せひい^(セベリア)やニ御れい申上候様に堅定め、已来ともた
 いせつ一身に立合、末代まで相替不申候様に、思ひ定めたること
 く、せひい^(セベリア)やより相定め之やくそくの判被下候、其たいせつ記に、
 吾等指物進上申候、然者帝王さま、はつはさま御前、吾等兩人使
 者、無事に參着、吾等之望叶申様に御^(マ)齋覚所仰候、然者其元^(寄)
 余之ふね道之ひらう人上手、より合御座候所承候、かならずく
 御談合被成、すくに日ほん^(本)よりせひい^(本)やに參候事、成左右なる事
 にて候や極被下候ハ、今より毎年渡海申様に持可申候、委曲可
 申候へとも、ふらいるい子そてろ、委曲口上に可被申候間、早々
 申宜候、又此方にをひて^(於)似合之御用等も候ハ、可承候、随分御馳
 走可申候、恐々謹言、

慶長十八年 伊達陸奥守（花押）

九月四日 政宗（朱印）
 せひい^(シ)や^(シ)した^(シ)あ^(シ)て

まいる人々御中

慶長遣欧使節に関する資料として、伊達政宗がセベリア市宛に送った書状のレプリカを在日スペイン大使館から今回出展していただきました。

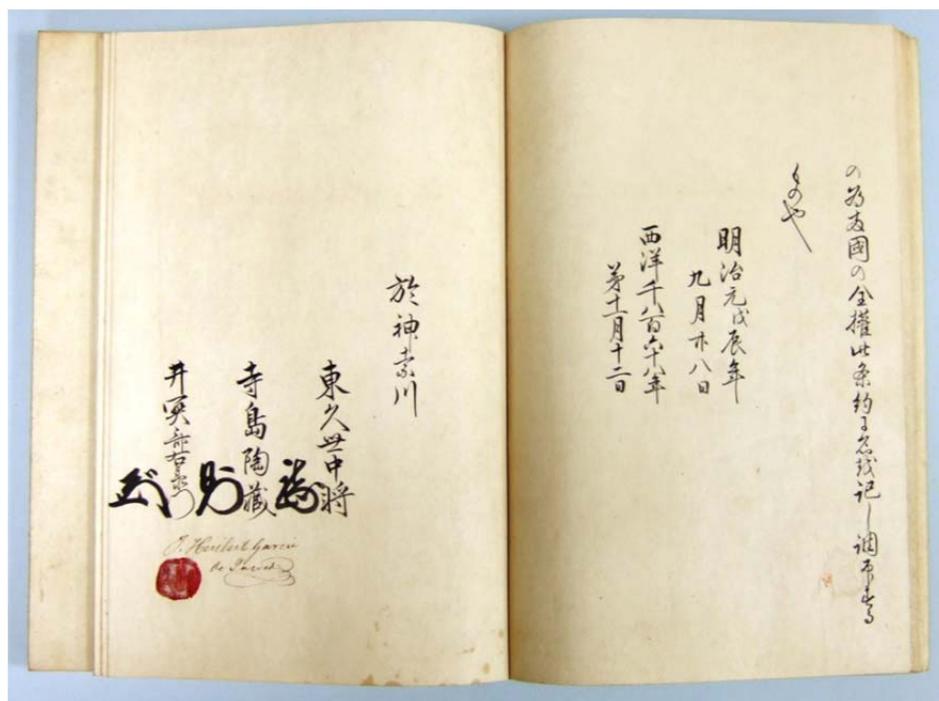
この書状は、1614年10月27日、支倉常長からセベリア市長に捧呈されました。書状には、使節に同行した宣教師ルイス・ソテロ（Luis Sotelo）が仙台藩にキリスト教を伝え、その素晴らしさを理解したので、キリスト教徒になることを希望する。そこで、スペイン国王とローマ教皇にこちらの願いが叶うように依頼するため、ソテロに頼み、支倉常長を遣わした。また、セベリア市は繁栄しており、格別に重要に思っている。毎日本国からセベリアに渡航させたいことなどが記されています。

I 外交関係の樹立

1612年（慶長17年）、徳川幕府は直轄領に対して、キリスト教の信仰を禁止する法令（禁教令）を發布し、慶長遣欧使節が派遣された3ヶ月後の1614年には、その政策を全国に及ぼしました。そして、1624年（寛永元年）には、スペイン船の来航を禁止しました。

それから200年以上、日本とスペインとの間の交流は途絶えていましたが、1853年（嘉永6年）のペリー来航をきっかけに日本が開国すると、1868年11月12日（明治元年9月28日）、日本とスペインの間で「大日本国西班牙国条約書」が調印され、両国の間に外交関係が樹立されました。

* 西班牙＝スペイン



〈展示史料1-1〉大日本国西班牙国条約書（調印書）

神奈川において、日本側全權東久世ひがしくぜみちとみ通禧外国官副知事、寺島宗則てらしまむねのり外国官判事、井関盛良いせきもりとめ外国官判事、スペイン側ケヴェード（José Heriberto Garcia de Quevedo）在清国及安南国特命全權公使が調印。

Ⅱ スペインへの外交使節派遣

1871（明治4年）、日本政府は、岩倉具視^{いわくらともみ}右大臣を全権大使とする使節団を欧米に派遣しました。目的は、日本が条約を結んだ各国への国書の捧呈と条約改正交渉、そして各国の制度・文物の視察・調査でした。岩倉使節団は当初、スペインへの訪問も予定していましたが、スペインでは、革命が起こり、女王イサベル2世（Isabell II）がフランスに亡命するなど、混乱が続いていたため、訪問を見送りました。

その後、革命が収束し、1874年12月にアルフォンソ12世（Alfonso XII）が新国王として即位すると、在日スペイン公使からスペインへの使節派遣の申し入れがあり、日本側もこれに応じて、1876年、上野景範^{うえのかげのり}在英国公使を特使として派遣することになりました。



上野景範公使

（1844～1888）

『国史大辞典』より転載



〈参考〉アルフォンソ12世のマドリッド入市

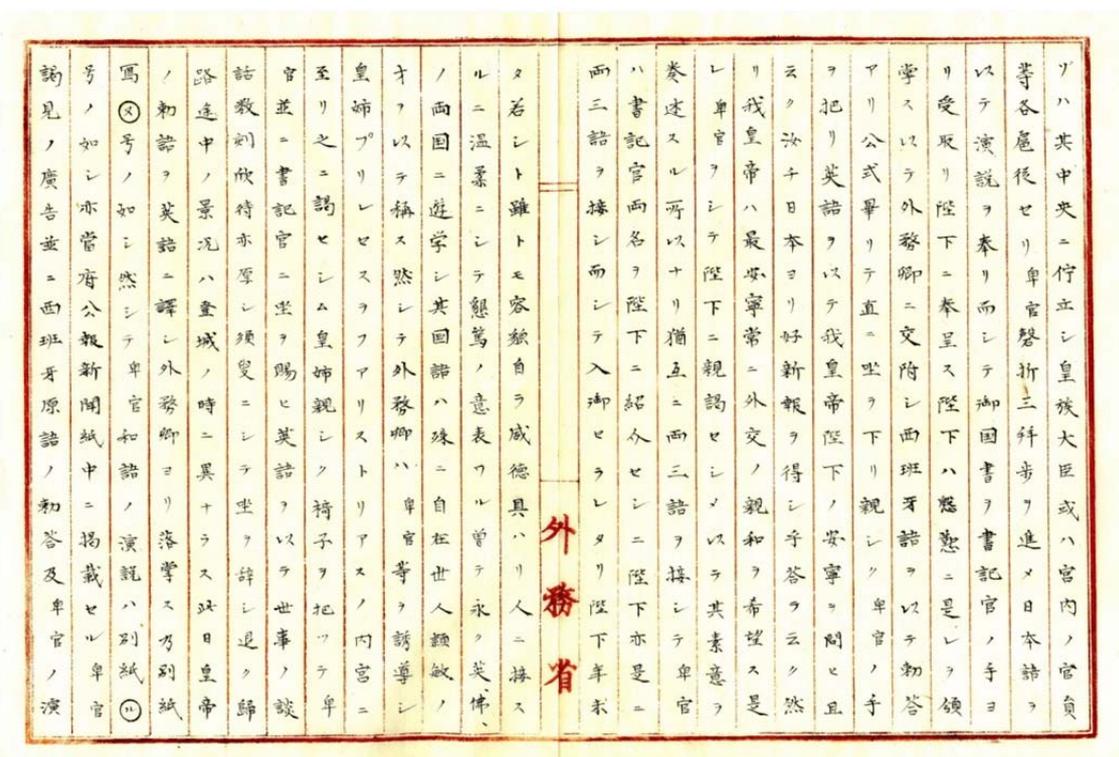
The Illustrated London News
1875年2月6日号より転載

スペインへの外交使節(上野公使)日程表

年 月 日	行 動
1876年3月13日	ロンドンを出発。
3月14日	パリに到着。在仏スペイン公使、ポルトガル公使、英国公使を訪問。
3月15日	在仏スペイン公使、ポルトガル公使、英国公使が上野の宿へ答礼訪問。
3月16日	パリを出発。スペインとの国境の町ポーにおいてスペイン国内の様子を調査。内乱のため、鉄道、橋梁が破壊されているとの情報を得る。
	軍用鉄道復旧を待つために、ビアリッツに逗留。
3月22日	軍用鉄道復旧。ビアリッツを出発。
3月23日	ブルゴスに宿泊。
3月24日	ワルトレドに宿泊。
3月25日	晩にマドリッドに到着。
3月27日	鈴木金蔵書記官らがスペイン外務省を訪問し、上野公使到着を報告。
	上野公使からスペイン外務卿に宛てた書簡を手交。
3月28日	スペイン外務卿より上野公使宛に書簡が届き、29日に面会との連絡がくる。
3月29日	上野公使、外務卿に面会。国王への謁見儀礼について確認。
3月30日	4月1日午後3時に国王への謁見が決定。
4月1日	スペイン国王アルフォンソ12世に謁見。明治天皇の国書を捧呈。
	晩には大統領から晩餐会への招待を受ける。皇族や各国公使が同席。
	以後数日、各国公使や政府要人と面会。
4月5日	告別謁見について外務省で相談。
	国王の招待により観劇。
4月8日	工芸博物館の開業式に参列。告別謁見の日程が13日に決定。
4月13日	洗足式(国王が貧しい人を招き足を洗う儀式)に招待される。
	国王に告別の謁見を行い、賞牌を賜わる。
	晩にマドリッドを出発。
	コルドバ、セビリア、グラナダ、バダホスを訪問。
4月24日	ポルトガルの首都リスボンに到着。
5月12日	リスボンを出発。海路ロンドンへ。
5月16日	ロンドンに帰着。

※スペイン内乱中で岩倉使節団が訪問できなかったポルトガルへも訪問しています。

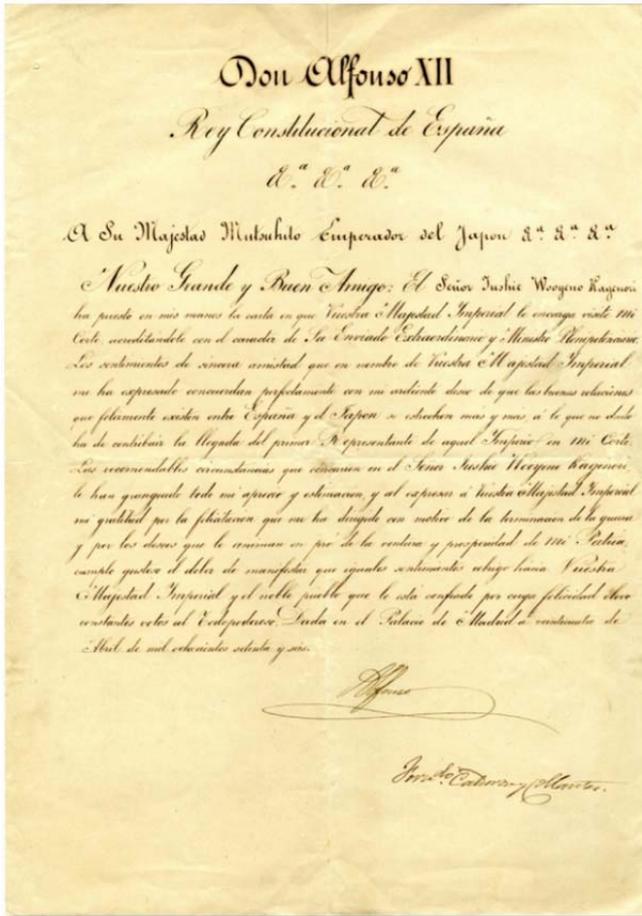
上野公使は書記官2名、通訳1名、従者1名の総勢5名でスペインに向かいました。後に上野が作成した報告書には、特使としてロンドンを出発し、再び帰着した1876年3月13日から5月16日までのことが日記風に記録されています。スペインの内乱終結から間もない時期であったため、鉄道や橋梁が破壊されており、マドリードに至るまでに大変苦勞したことや、マドリードで国王アルフォンソ12世に歓待を受けたことなどが記されています。



〈展示史料3〉上野景範公使作成のスペイン訪問に関する報告書

上野公使は、1876年4月1日にアルフォンソ12世に国書を捧呈しました。国王は、明治天皇からの国書を受領すると、スペイン語で応答し、公式儀礼が終わると、玉座をおりて、上野の手を取り、英語で親しく話しかけられました。上野は、国王は年齢は若い、容貌には威徳が備わり、温和である。また、英仏に遊学していたため、両国語を自在に操り、英明な君主と言われていると記録しています。

その後、上野公使訪問への謝辞として、アルフォンソ12世より明治天皇に国書が送られました。



アルフォンソ 12 世
(1857~1885)
『スペイン王権史』より転載

〈展示史料 4〉
スペイン国王アルフォンソ 12 世
より明治天皇宛国書

和訳（大意）

スペイン国王ドン・アルフォンソ 12 世より謹んで日本国天皇陛下に書簡を呈します。

このたび、上野景範公使より、天皇陛下が同公使を我が宮廷に派遣する旨を命じた勅書を受領いたしました。同公使が天皇陛下の名を以て、私に述べた誠実懇親の情は、実に、スペインと日本の間に存する善良な交際がますます発展することを願う私の考えに合致します。日本国の公使が我が宮廷に初めて来たことは、将来、両国の交際が進捗するための大きな力となることは疑いのないことです。そして、上野公使は非常に篤実であり、私は同公使を大変重要に思っております。

このたび、わが国の内乱が収束したことにつき、祝詞を賜り、殊にわが国の幸福繁栄を祈念して下さったことは、感激に堪えません。私もまた、天皇陛下並びに貴国人民のために、同様の念を持つことを表明いたします。私は常に天皇陛下並びに貴国人民の幸福を天に祈り、絶えざる進歩があることを心よりお祈り申し上げます。

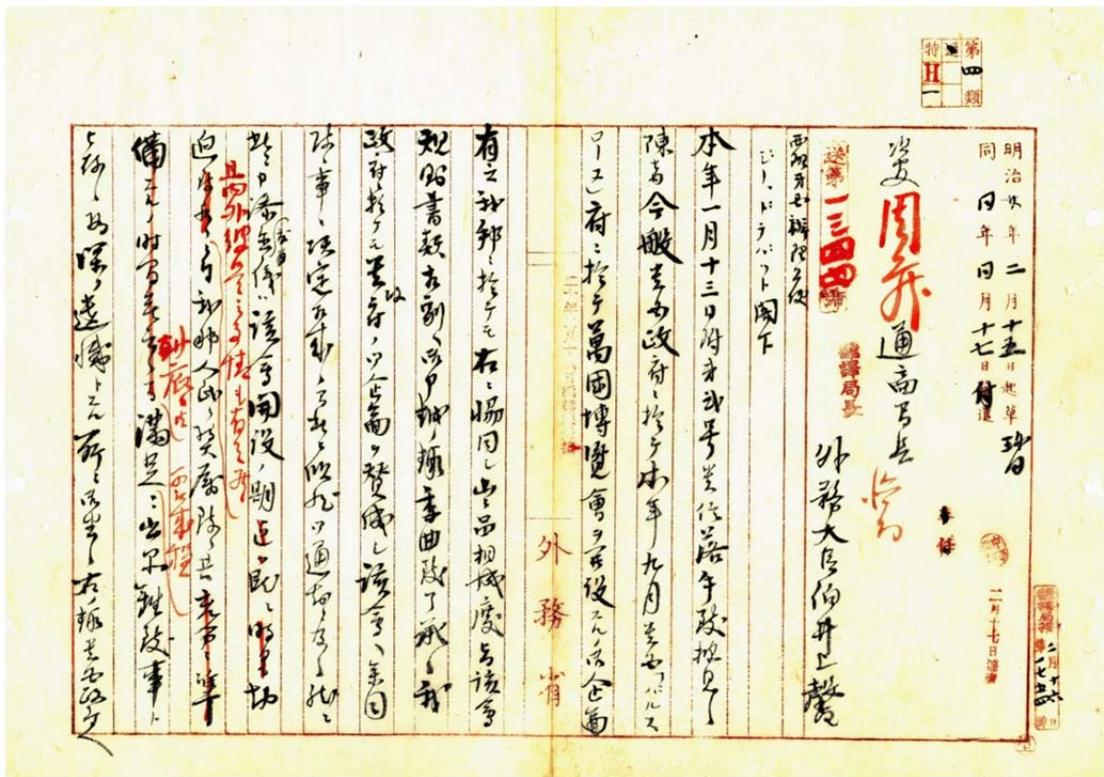
1876 年 4 月 24 日 マドリードの宮殿にて

アルフォンソ

Ⅲ バルセロナ万国博覧会への参加

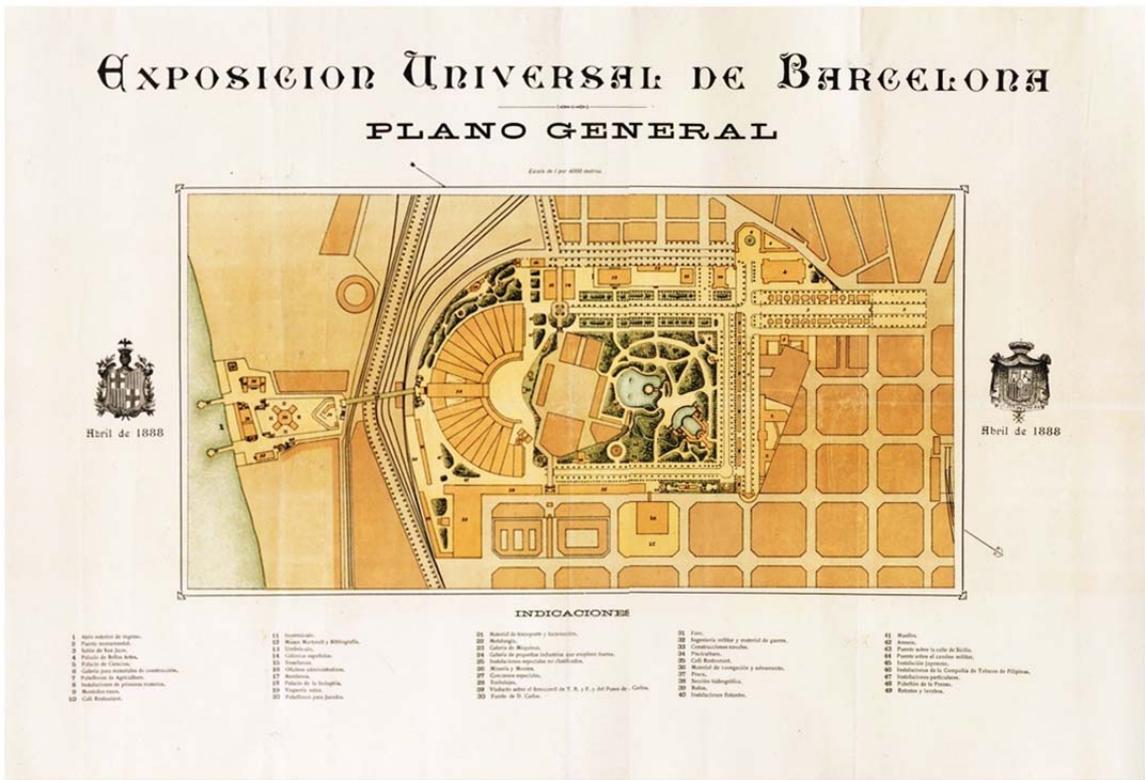
1887年（明治20年）1月、在日スペイン公使より、バルセロナにおいて万国博覧会を開催するので、日本からも出品してほしいとの連絡がありました。日本政府は同年2月、スペイン公使へ同博覧会への参加を決定したことを通知しました。博覧会は当初、同年9月開会の予定でしたが、規模を拡大するために延期となり、翌1888年4月から12月まで開催されました。

5月20日には、当時2歳であった国王アルフォンソ13世（Alfonso XIII）が、摂政を務めていた国王の母であるマリア・クリスティーナ王太后（María Cristina）とともに出席し、開場式が行われました。王太后が日本の陳列場をご覧になった際には、出品依頼引受人である松尾儀助（^{まつお ぎすけ}起立工商会社社長）より金銀や貝で装飾された漆塗りの書棚が献上されました。王太后は日本の出品品について、「美麗なる出品なり」と述べられたそうです。また、庭園内には、日本家屋が再現されていましたが、王太后のご来場に合わせ、祭日用の提灯、国旗、紙製の鯉数尾を掲げたとの記録が残っています。



〈展示史料5〉バルセロナ万国博覧会への参加について

井上馨外務大臣から在日スペイン公使宛公信



〈展示史料6〉 バルセロナ万国博覧会会場図（予定図）



〈参考〉 コロンブス記念塔

万博の際に建設された塔で、現在も展望台として使用されている。

Ⅳ 高松宮同妃両殿下のスペインご訪問

1930年（昭和5年）11月、高松宮宣仁親王殿下たかまつのみやのぶひとと喜久子妃殿下きくこがスペインをご訪問されました。昭和天皇が即位された際に、スペイン国王より勲章が贈呈されましたが、昭和天皇はその答礼として、弟宮である高松宮殿下を名代としてスペインに遣され、スペイン国王アルフォンソ13世に大勲位菊花章頸飾（最高位の勲章）を贈呈されました。

この時に、両殿下はプラド美術館、古都トレド、アランフェス離宮、セビリア、コルドバ、グラナダ、バルセロナなど、スペインの多くの名所をご訪問されました。マドリード王宮にある王室武具博物館をご見学された際には、支倉常長かっちゅうがスペイン国王に献上した甲冑かっちゅうの遺物（火災のため損傷）を興味深くご覧になったとの記録が残っています。

高松宮同妃両殿下スペインご訪問日程表

年月日	行動
1930年11月2日	ビアリッツをご出発。イルン駅から、スペイン王室が用意した「ロイヤル・カー」（パリ発スペイン行の急行列車に接続）に乗り換えられ、マドリードへご出発。
11月3日	マドリードにご到着。駅にてスペインの王族の出迎えを受け、宮殿へ向かわれる。国王アルフォンソ13世に謁見。菊花章頸飾御贈進式挙行。 国王主催の晩餐会へご出席。
11月4日	プラド美術館、王室武具博物館をご見学。 エル・エスコリアル修道院において、皇太后墓前に花環ご贈呈。 高松宮殿下主催晩餐会開催。
11月5日	トレドご訪問。エル・グレコの家屋をご見学。作品をご鑑賞。 大寺院（カテドラル）、武器製造所をご見学。
11月6日	マドリードの古物博物館をご見学。アランフェス離宮をご観光。
11月7日	リスボンに向けてご出発。
11月8日～11日	ポルトガルご訪問。
11月12日～17日	セビリア、コルドバ、グラナダ、バルセロナご訪問。
11月17日	バルセロナにて、「東京通り」の命名式にご出席。フランスへご出発。



〈参考〉マドリードにご到着され、スペインの
王族の出迎えを受ける両殿下



〈参考〉ブラド美術館ご訪問
左右とも『若梅に撫子—旧高松宮家と伝来の品々』より転載



〈参考〉トレド全景



〈参考〉グラナダ アルハンブラ宮殿



〈参考〉コルドバ メスキータ

🌀 日西墨三国交通発祥記念之碑 🌀

ところで、高松宮殿下ご訪問に先立つ 1928 年（昭和 3 年）、千葉県夷隅郡浪花村（現在の御宿町）の岩和田海岸（現田尻浜）に、日本とスペイン、メキシコの交通発祥記念碑が建立されました。 *墨西哥=メキシコ

これは、1609 年（慶長 14 年）、フィリピン諸島長官であったドン・ロドリゴ・デ・ビベロ総督（Rodrigo de Vivero）を乗せたスペイン船サンフランシスコ号がメキシコ（当時スペイン領）に向かう途中、嵐に遭って岩和田海岸で沈没した際に、岩和田の人々が救助し、それをきっかけに日本とスペイン、メキシコとの交流が始まったことを記念して建立されたものです。岩和田の住民に救助された後、ドン・ロドリゴは將軍徳川秀忠とくがわひてだや大御所徳川家康に謁見し、翌年メキシコに帰国しました。この出来事への謝意を伝えるため、1611 年、メキシコからセバスティアン・ビスカイノ（Sebastián Vizcaíno）が日本に派遣され、ビスカイノは支倉常長ら慶長遣欧使節と共にメキシコに帰国しました。

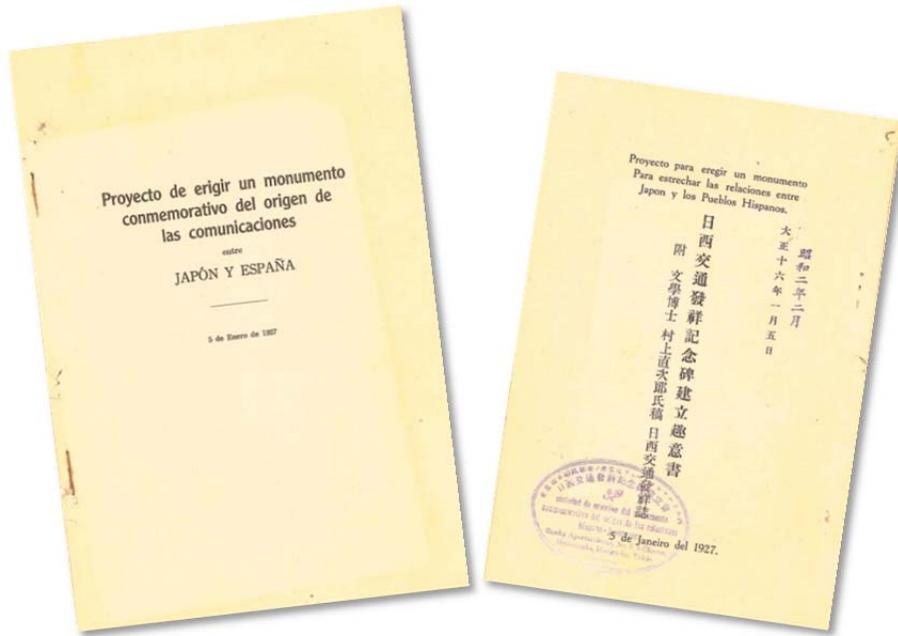
この記念碑建立にあたり、スペイン政府から 5000 ペセタの寄付金が寄せられました。また、高松宮殿下ご訪問時のスペイン国王晩餐会における国王の歓迎の挨拶でも、本記念碑の建立は大変喜ばしいことであると言及されています。



〈参考〉 日西墨三国交通発祥記念之碑

所在地：千葉県夷隅郡御宿町岩和田

画像提供：御宿町役場



〈展示史料 8〉 日西交通発祥記念碑建立趣意書
 スペイン語版、日本語版



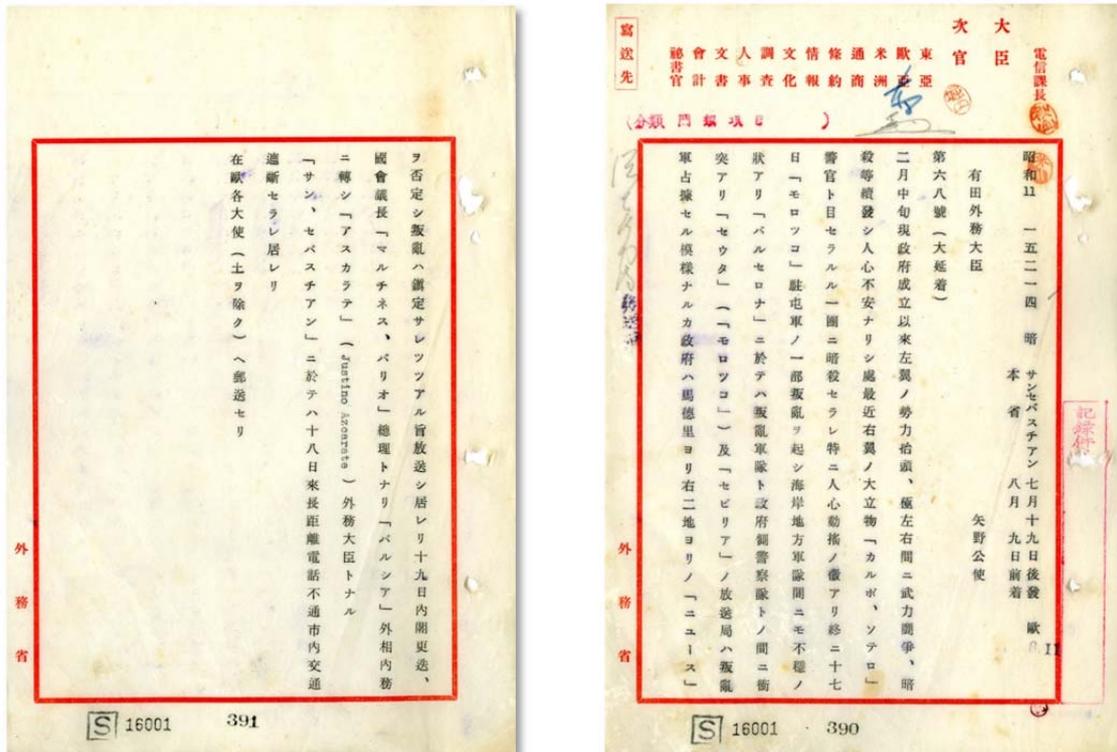
Ceremonia de colocación de la Primera piedra del Monumento, celebrada el día
 7 de Noviembre de 1926.

En el centro removiendo la tierra con la pala, S. E. D. Pedro Quartín, Ministro de España en Japón,
 y a su lado de izquierda a derecha, S. E. el Sr. Conde K. Hiroswawa, S. E. el Contraalmirante
 Sr. K. Moriyama y el Representante del Gobernador civil de la Provincia de Chiba.

1926年（大正15年）11月7日挙行の定礎式の様子
 鋤を手にしているのは、クワルチン（Pedro Quartín）在日スペイン公使。

V スペイン内戦と日本

スペインでは1936年（昭和11年）7月から1939年3月まで激しい内戦が続き、1931年に王制から共和制へと移行したのち、1936年に左派の人民戦線が政権を握ると、フランシスコ・フランコ（Francisco Franco）を中心とする反乱軍が蜂起して内戦状態になりました。戦闘は人民戦線政府を支援するソ連や、反乱軍を支持するドイツ・イタリアを巻き込んで激しさを増し、マドリードの日本公使館は一時閉鎖されて、フランス国境に近いサンジャンドリューズへ移転しました。日本は内戦勃発時には、人民戦線政府と外交関係を維持していましたが、反乱軍が戦況を有利に進める中、1937年12月1日、フランコ政権を承認しました。その後、1939年3月28日にマドリードが陥落し、フランコ政権は4月1日に内戦終結を宣言しました。また、スペインは1939年3月27日、日独伊防共協定に参加しました。



〈展示史料 10〉内戦勃発を知らせる電報（1936年7月19日発）

モロッコやバルセロナで反乱軍が蜂起したことを、夏季を過ごすサンセバスティアンで知った矢野眞^{やのまこと}公使が送った電報。混乱のため、この電報が東京の外務省に着いたのは8月9日。「大延着」と記されている。



〈展示史料 12〉 スペイン国の共産インターナショナルに対する協定参加に関する議定書
 共産インターナショナル（いわゆるコミンテルン）の活動を^{ぼうあつ}防遏する目的で日独伊三国が結んだ
 協定（日独伊防共協定）に対し、スペインが参加した議定書（4月8日公表）。



〈展示史料 13〉 ^{すまやきちろう}須磨弥吉郎在スペイン公使写真帳より
 左から二人目が須磨在スペイン公使、三人目がフランコ。

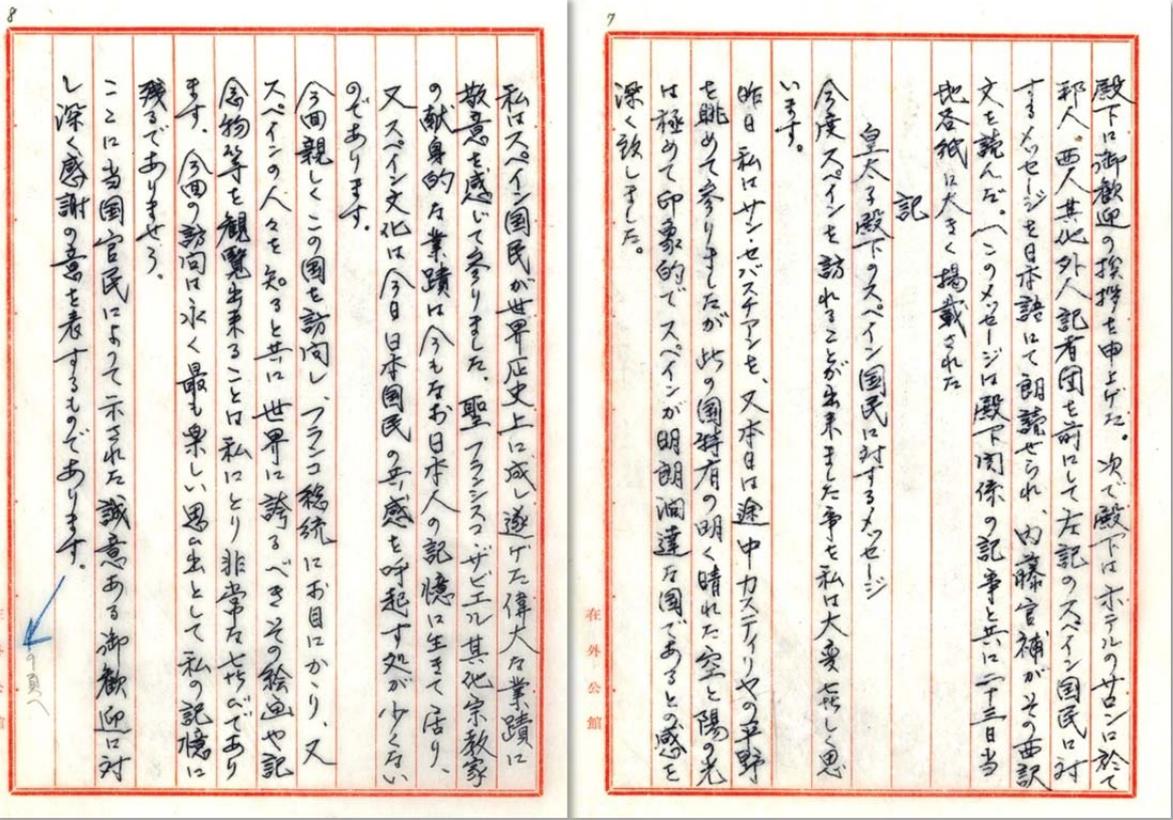
VI 外交関係の再開

1939年（昭和14年）9月、第二次世界大戦が始まると、スペインは中立を宣言しました。その後、1945年4月11日にスペインが対日断交を通告して以降、日西間は国交が途絶えていましたが、1951年10月、在日スペイン外交代表デル・カステイヨ公使（Francisco J. del Castillo）より日本との外交関係再開につき申し出があり、協議の結果、サンフランシスコ平和条約発効の日（1952年4月28日）をもって両国の外交関係を再開することになりました。

外交関係を再開した翌1953年、皇太子明仁親王殿下（現在の天皇陛下）が、英国のエリザベス女王（Elizabeth II）の戴冠式に昭和天皇の名代としてご出席になり、その後、スペインをご訪問されました。

皇太子殿下スペインご訪問日程表

年 月 日	行 動
1953年6月21日	ビアリッツをご出発。サンセバステイアンご訪問。市内ご見学後、市長主催の午餐会にご出席。バスク舞踊ご観覧。フロントン（ペロタ競技場）ご見学。 晩にマドリードへご出発。
6月22日	マドリードにご到着。 ホテルにおいてスペイン国民に対するメッセージをご朗読。 市内ご見学。マドリード市主催午餐会にご出席。
6月23日	マドリード大学都市をご訪問。
6月24日	パルド大統領宮殿においてフランコ総統とご会談。 渋澤信一在スペイン大使主催レセプションにご出席。
6月25日	ブラド美術館ご見学。フランコ総統主催午餐会にご出席。
6月26日	エル・エスコリアルご訪問。王立修道院、王室墓所、最高評議室等をご見学。 マドリードに戻られ、スペイン・バレーをご観覧。
6月27日	トレドご訪問。エル・グレコの家屋をご見学。作品をご鑑賞。 トレド城塞廃墟、サント・トメ寺院、カテドラル等をご見学。 マドリードに戻られ、バルセロナへご出発。
6月28日	バルセロナにご到着。スペイン国民に対する告別のメッセージご発表。 「少年の町」をご見学。フランスへご出発。



〈展示史料 15〉 皇太子殿下スペインご訪問に関する報告書
 皇太子殿下のスペイン国民に対するメッセージ

皇太子殿下は6月22日にマドリードにご到着されると、スペイン国民に対してメッセージを送られました。そのなかで、スペインの明るく晴れた空と陽の光は極めて印象的で、スペインが明朗闊達な国であるとの感を深くしたこと、また誠意ある歓迎に深く感謝する旨を述べられました。その後、エル・エスコリアル、トレド、バルセロナ等、スペイン各地をご訪問されました。6月28日にバルセロナで発表された告別のメッセージには、訪問を通して、スペインの歴史的偉大さを知り得たこと、また各地で官民により示された親愛をスペインの深い友情のしるしとして日本に持ち帰ることが記されています。

🌀 両国の交流に関する文書を求めて 🌀

外交史料館には、幕末以降の外交に関する記録が保存されていますが、その中には、前近代の日本とスペインの交流を示す記録も含まれています。最後にこれらの文書をご紹介します。

1933年（昭和8年）7月、内田康哉^{うちだやすや}外務大臣は各在外公館長に宛てて、任国内にある日本外交に関する史料の収集を命じました。その趣旨は、内外の外交史料の収集・充実を計り、これを永く保存・陳列して省員の参考に供するとともに、場合によっては、外交史料展覧会等を開催し、国民への外交知識の普及に役立てるというものでした。

この訓令に従って、スペイン国内でも調査が行われ、1934年、青木新^{あおきあらた}在スペイン公使は広田弘毅^{ひろたこうき}外務大臣宛に、セビリアのインディアス公文書館に所蔵されている二通の書状の写を送付しました。

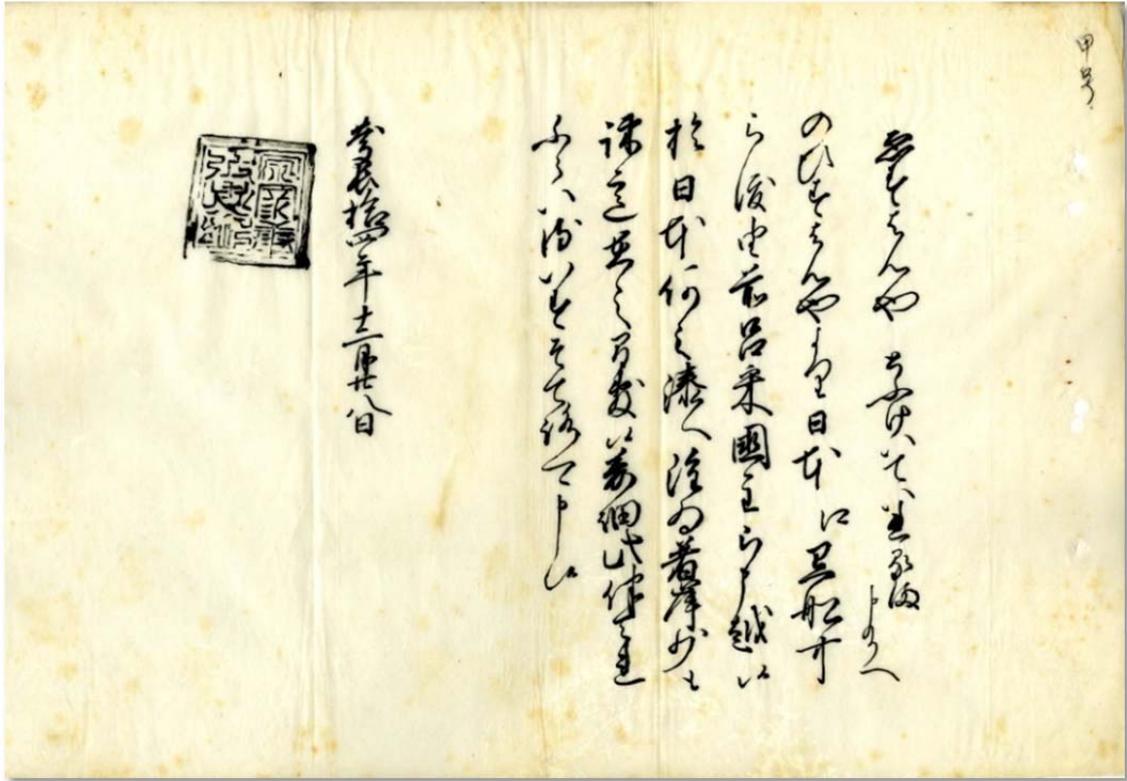
送付されたのは、慶長14年12月28日（1610年1月22日）付の徳川家康からレルマ公爵（Duque de Lerma）スペイン国王の寵臣）に宛てられた書状の写と、翌慶長15年5月4日（1610年6月24日）付で将軍徳川秀忠がレルマ公爵に宛てた書状の写で、いずれも、スペイン船の日本への渡航を許可したものです。書状に名前が出てくる宣教師ルイス・ソテロは、通訳の役目も果たしていました。彼はその後、伊達政宗と出会い、慶長遣欧使節の一員として、支倉常長に同行し、スペイン国王フェリペ3世やローマ教皇パウロ5世に謁見しました。



〈参考〉

インディアス公文書館

16世紀の建築で、建物自体が世界遺産に登録されている。フィリピンを含む新大陸関係の文書等が約4万3000束保存されており、そのうち、慶長遣欧使節関係の文書64点が世界記憶遺産に登録された。

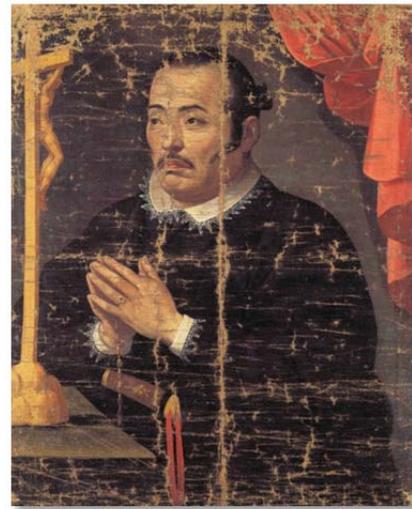


〈展示史料 17-1〉 徳川家康からレルマ公爵宛書状の写

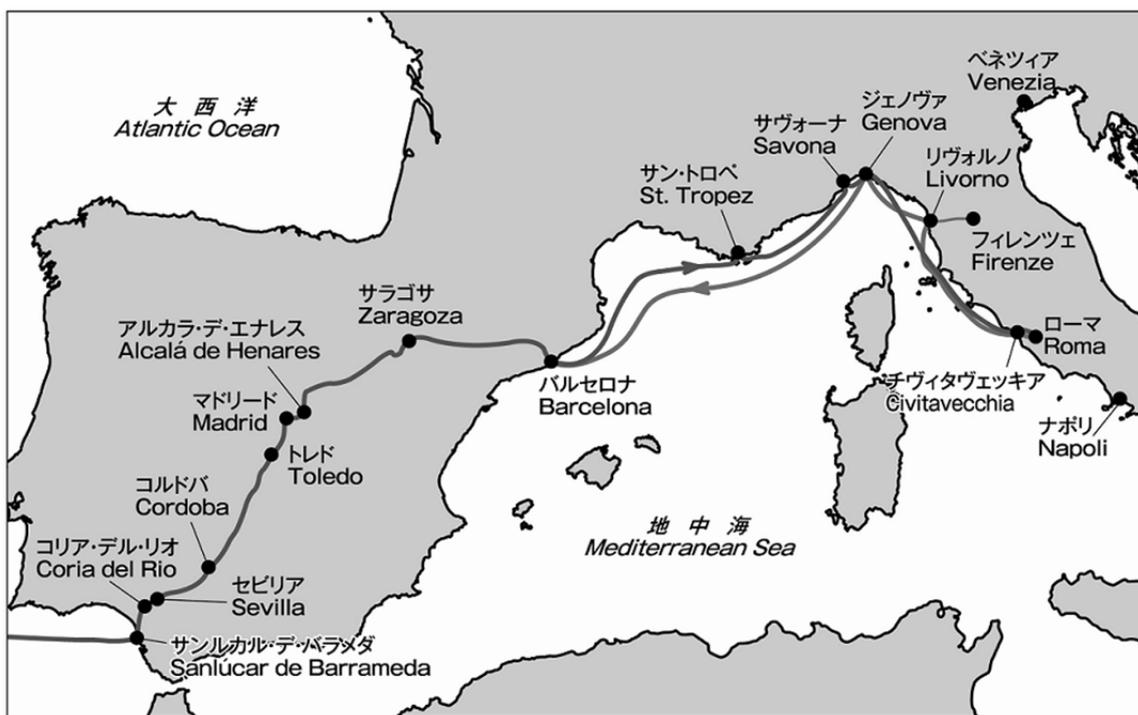
(イスパニア) (ドウケ・デ・レルマ)
 急すはんや とふけいていれるま
 申給へ
 (ビスパニア・メキシコ)
 のひすはんやより日本江黒船可
 (ルソン)
 被渡由前呂宋国主被申越候
 於日本何之湊へ雖為著岸少も
 (パードレ)
 疎意在之間敷候委細此伴てれ
 (フライ・ルイス・ソテロ)
 ふらいるいすそてろ可申候
 慶長拾四年十二月廿八日
 [印]

1935年には、シマンカス公文書館に所蔵されている支倉常長の書状の写真が送付されました。この書状は、慶長19年8月26日（1614年9月29日）付で支倉常長がレルマ公爵に宛てた書状で、伊達政宗が藩内の者全員にキリスト教への改宗を命じたこと、常長にスペイン国王とローマ教皇に謁見し、宣教師の派遣を依頼するよう命じたことなどが記されています。

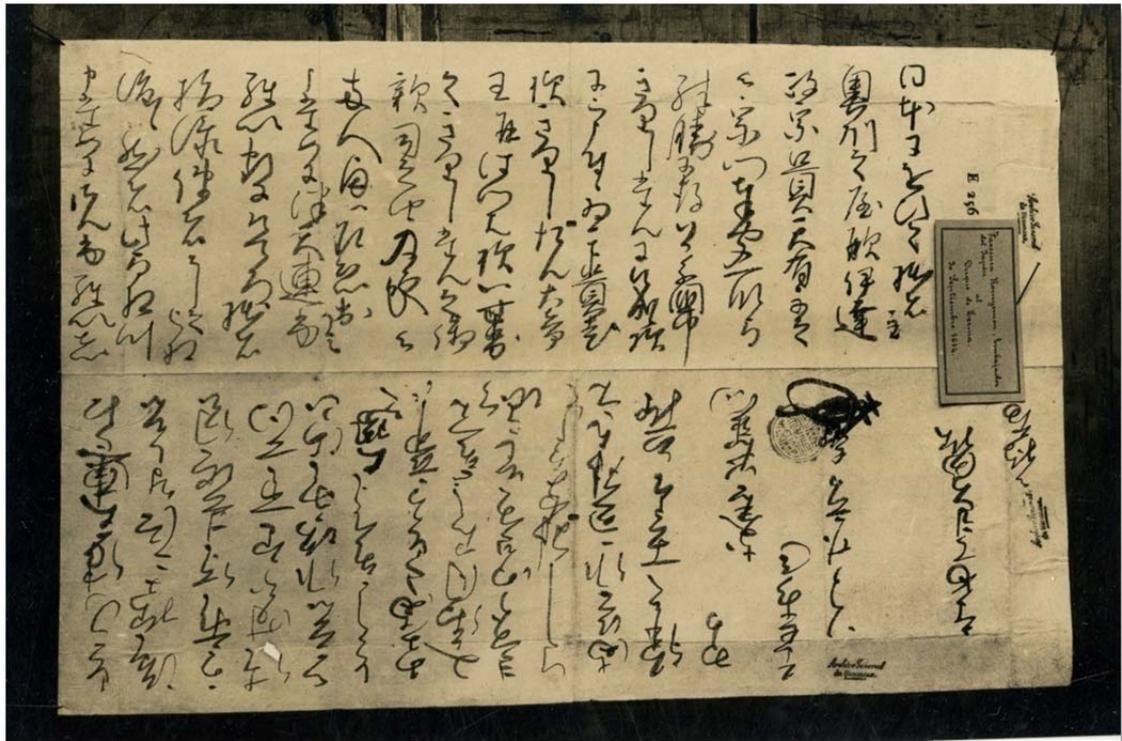
結果として、慶長遣欧使節の目的は達成されず、また日本国内でのキリスト教禁令のため、使節の記録は秘匿され、その存在は長い間、忘れられていました。しかし、明治維新後、岩倉使節団がイタリアで支倉常長の書状を発見したことで、再び世に知られるようになりました。そして、派遣から400年後の今日、彼らの業績は、日本とスペインの関係の基礎となり、両国を結びつける上で、大きな役割を果たしています。彼らが遺した「慶長遣欧使節関係資料」は、日本とスペインの共同推薦のもと、本年（2013年）6月、世界記憶遺産に登録されました。



〈参考〉支倉常長像
仙台市博物館所蔵



〈参考〉慶長遣欧使節ヨーロッパ行程図
『国宝「慶長遣欧使節関係資料」』（仙台市博物館）より転載



〈展示史料 18〉 支倉常長からレルマ公爵宛書状の写真

日本にをひて拙者主
 奥州之屋形伊達
 政宗貴天有主之
 御宗門奉聞一段与
 殊勝に存ハ^(我)か分国中
 きりしたんに罷成候様
 に被申付候為其貴老
 様きりしたん大帝^(ラエリーベ三世)
 王并はつは様一世界^(ハツバルローマ教皇)
 のきりしたん之御
 親司之由及承候^(種)
 兩人さまへ乍恐おかミ
 申ために伴天連布^(ラ)
 ライルイス・ソテロ^(ラ)
 羅い類子そてろへ 拙者
 指添使者として被相
 渡候然者此望相叶
 申ためにさんふらいし

すこの伴天連被相
 渡候様に被仰付候者
 可忝候何も其地へ伺ひ
 仕候時分重万々可得
 御意候次永々海山
 とこし参候へとも大勢之^(越)
 あにまたすかる事に候^(テニマニ靈魂)
 又御目見へニ参候へはくら
 き所より明き所へ出申候こゝ地^(心)
 いたし外聞与申令
 満足候慮外にて候へ共
 謹て一書申上候 恐惶
 敬白

支倉六右衛門
 慶長十九年
 八月廿六日 長経 (花押)
 堂(ドウケ・デ・レルマ)
 けてれるま様
 御披露

関係年表

和暦	西暦	日本・スペイン関係	国王	スペイン国内	日本国内、一般事項等
慶長	14 1609	スペイン船、サンフランシスコ号が岩和田海岸で座礁	フェリペ3世		幕府、直轄領に禁教令を發布
	17 1612				
	18 1613	慶長遣欧使節、月ノ浦より出発			
18 1614					
20 1615	支倉常長、スペイン国王に謁見				
元和	1 1615	支倉常長、ローマ教皇に謁見	フェリペ3世		幕府、全国に禁教令を發布
	6 1620	支倉常長、帰国し、伊達政宗に報告			
寛永	1 1624	幕府、スペイン船の来航を禁止	ペフェリ		
慶応	3 1868		イサベル2世		王政復古の大号令
	1 1868	条約締結交渉のため、スペイン使節来日	イサベル2世	革命勃発 イサベル2世フランスへ亡命	
明治		大日本国西班牙国条約書調印			
	3 1870		アマデオ1世		
	4 1871		アマデオ1世		岩倉使節団派遣(～73) イタリアで支倉常長の書状発見
	6 1873			第一共和政	
	7 1874			アルフォンソ12世即位	
	9 1876	上野景範在英国公使スペイン訪問			
	10 1877	スペイン船「エスペランサ」号救助 バルセロナ博物館へ日本の物産出品	アルフォンソ12世		
	18 1885		アルフォンソ12世	アルフォンソ12世逝去	
	19 1886			アルフォンソ13世即位	
	21 1888	バルセロナ万国博覧会へ参加(政府・民間)			
	22 1889				大日本帝国憲法発布
	27 1894				日英通商航海条約調印 日清戦争(～95) 日清講和条約調印
	28 1895	太平洋西部に於ける日西両国版図の境界確定に関する宣言	アルフォンソ13世		
30 1897	日西修好交通条約調印	アルフォンソ13世			
31 1898	日本、米西戦争に対し中立を宣言	アルフォンソ13世	米西戦争→敗北によりキューバ独立承認。フィリピン、プエルトリコ、グアム米国領に		
33 1900	日西特別通商条約調印 在スペイン日本公使館開設				
44 1911	日西修好交通条約調印(条約改正)			日米通商航海条約調印	
大正	3 1914			第一次世界大戦 中立を宣言	第一次世界大戦(～18)
	12 1923			プリモ＝デ＝リベラ独裁政権成立(～30)	

和暦	西暦	日本・スペイン関係	国王	スペイン国内	日本国内、一般事項等					
昭和	3	1928	アルフォンソ13世	アルフォンソ13世亡命 第二共和制 人民戦線政府成立 スペイン内戦(～39年3月) フランコ政権成立(～75) 第二次世界大戦 中立を宣言 フランコ、終身国家元首に就任 ファン・カルロス1世(現国王) スペインに入国 ユネスコに加盟 国際連合に加盟 フランコ死去。ファン・カルロス1世即位(王政復古) 総選挙の実施 新憲法制定。立憲君主制へ EC加盟	世界恐慌 満州事変 盧溝橋事件 日中戦争(～45) 第二次世界大戦(～45) 太平洋戦争(～45) ポツダム宣言受諾 降伏文書調印 サンフランシスコ平和条約調印 サンフランシスコ平和条約発効(4月28日) 国際連合に加盟 東京オリンピック開催					
	4	1929				バルセロナ万国博覧会へ参加(民間)				
	5	1930				高松宮同妃両殿下スペインご訪問				
	6	1931								
	11	1936				マドリード日本公使館閉鎖				
	12	1937				日本政府、フランコ政権を承認				
	14	1939				スペインが日独伊防共協定に参加				
	16	1941								
	20	1945				国交断絶(4月11日)				
	22	1947								
	23	1948								
	26	1951								
	27	1952				外交関係再開(平和条約発効日をもって再開)				
	28	1953				皇太子殿下(現天皇陛下)スペインご訪問				
	30	1955								
	31	1956								
	39	1964								
	47	1972				ファン・カルロス1世夫妻来日				
	48	1973				皇太子同妃両殿下スペインご訪問				
	50	1975								
	52	1977								
	53	1978								
	55	1980				スペイン国王夫妻来日				
	60	1985				皇太子同妃両殿下スペインご訪問				
	61	1986								
	平成	1				1989	ファン・カルロス1世	バルセロナ五輪、セビリア万博、新大陸到着500周年記念事業	長野オリンピック開催	
		2				1990				スペイン国王夫妻来日(大喪の礼)
		4				1992				フェリペ皇太子来日(即位の礼)
		6				1994				皇太子殿下スペインご訪問(万博、五輪開會式)
		10				1998				天皇皇后両陛下スペインご訪問
		13				2001				スペイン国王夫妻来日(長野五輪開會式)
16		2004	「慶長遣欧使節関係資料」国宝指定							
17		2005	皇太子殿下スペインご訪問							
20		2008	フェリペ皇太子夫妻来日							
25		2013	皇太子殿下スペインご訪問 スペイン国王夫妻来日 日本スペイン交流400周年 皇太子殿下スペインご訪問 「慶長遣欧使節関係資料」世界記憶遺産登録							

【主な参考文献】

- 『国宝「慶長遣欧使節関係資料」』（仙台市博物館、2001年）
『ジュニア版支倉常長』（仙台市博物館、2003年）
『スペイン王権史』（川成洋ほか、中央公論新社、2013年）
『世界歴史大系 スペイン史 2—近現代・地域からの視座—』
（関哲行ほか編著、山川出版社、2008年）
『仙台市史 特別編8 慶長遣欧使節』（仙台市史編さん委員会編、仙台市、2010年）
『支倉常長』（五野井隆史、吉川弘文館、2003年）
『若梅に撫子—旧高松宮家と伝来の品々』
（宮内庁三の丸尚蔵館編集、菊葉文化協会、2013年）
『The illustrated London news』
（The Illustrated London News 刊行会編集、柏書房、1997年）
『国史大辞典』（国史大辞典編集委員会、吉川弘文館、1979年-1997年）
『日本史総合年表』（加藤友康ほか編、吉川弘文館、2001年）

【謝辞】

本展示の開催にあたり、以下の機関にご協力いただきました。ここに記して、お礼申し上げます。

スペイン政府観光局
仙台市博物館
宮内庁三の丸尚蔵館
公益財団法人高松宮妃癌研究基金
千葉県夷隅郡御宿町役場

特別展示「日本とスペイン—外交史料に見る交流史—」展示史料解説

編集：外務省外交史料館

〒106-0041 東京都港区麻布台 1-5-3

03-3585-4511

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/>



日西交流 400 周年マスコット